

経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた(初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん)
～北陸・東海・近畿地方～

【経営発展支援事業】

採択年度	営農類型	米麦等	野菜等	果樹	畜産
令和4年(2023年)		福島県 鈴木 義彦 さん	北海道 濱田 剛・きずき さん	山形県 古山 寛 さん	岩手県 匿名希望 さん
		※島根県 匿名希望 さん	青森県 斉宮 大・知佳 さん	※島根県 匿名希望 さん	岐阜県 岡山 直人 さん
		※鹿児島県 中村 隆太郎 さん	秋田県 吉田 真大 さん	徳島県 匿名希望 さん	熊本県 田上 直人 さん
			山形県 中村 誠 さん		鹿児島県 匿名希望 さん
			埼玉県 横田 寛明 さん		
			栃木県 H. M・T さん		
			石川県 番場 智仁 さん		
			三重県 匿名希望 さん		
			京都府 芦田 泰子 さん		
			奈良県 木村 幸啓 さん		
			兵庫県 村上 玄一 さん		
			鳥取県 森田 智史 さん		
			山口県 匿名希望 さん		
			高知県 武政 大地 さん		
			宮崎県 匿名希望 さん		
			鹿児島県 竹之内 憲俊 さん		
			鹿児島県 山元 真之介 さん		
			鹿児島県 佃 和絵 さん		
			※鹿児島県 中村 隆太郎 さん		

※ 複数の類型について営農

石川県

ばんば ともひと
番場 智仁 さん (45歳)

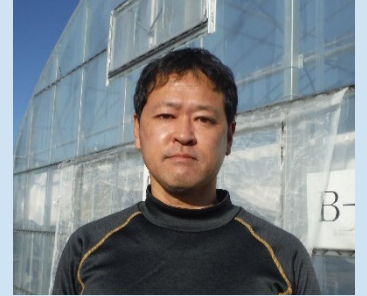
(営農類型：施設野菜【トマト】)

新規就農を志した経緯・背景

以前から祖父の家庭菜園を通じて興味があった農業を始めようと思い、JA小松市新規就農支援センター「アグリスクールこまつ」で栽培技術等を学び、トマトを主とした農業経営を行うことを決意した。

導入した機械・施設等

パイプハウス 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 就農前にJA小松市が運営する「アグリスクールこまつ」で2年間トマト栽培の基礎技術を習得。
- 就農後の施設整備（ハウス）の経費を削減するため、同JAが実施する「レンタルハウス」制度を利用した。

導入の効果

- 就農前研修の効果もあり、就農1年目から部会平均を超える収量を確保している。
- ハウスの増設を進めて土耕栽培にも取り組み、トマトの出荷量を増加させるとともにキュウリ栽培を導入し、経営の安定につなげた。
- 自分の後続く、若い人たちにも就いてみたい仕事と思ってもらえるような農業経営に発展させていきたい。

就農の状況と今後

就農準備(R2~R3)

- 令和3年にJA小松市「[アグリスクールこまつ](#)」で研修開始
- 普及員やJAから指導を受け、青年等就農計画を作成
- 「いしかわ耕稼塾(実践科)」で農業基礎知識の習得や農業機械の作業免許取得

外部リンクは
[こちら！](#)

現在(就農1年目(研修2年目))

養液トマト 13a
(ハウス5棟)
所得目標 82万円/年

- 今後の規模拡大に向け、本事業でハウス2棟とその他に資金を借りてハウス2棟の計4棟を増設

今後の目標(就農5年後)

養液トマト 13a (ハウス5棟)
土耕トマト・きゅうり 6a
(ハウス3棟)
所得目標 484万円/年

- 養液栽培ハウスの長期どりトマトを主軸に、土耕栽培のトマトやキュウリにも取り組み、所得向上を図る。

岐阜県

岡山 直人さん (30歳)

(営農類型：繁殖牛)

新規就農を志した経緯・背景

大学在学中、研究室のヤギ・ヒツジの飼養管理を行っており、動物と向き合う畜産分野のおもしろさを感じ、将来的には自分で畜産経営がしたいという漠然とした目標があった。肉用牛の哺育から素牛までの育成段階に特に魅力を感じ、繁殖経営をしたいと考えた。

導入した機械・施設等

繁殖用雌子牛8頭



初期投資を行う上で留意したポイント

畜産業界への新規参入ということもあり、中古牛舎を購入したり、妊娠牛を買うなど、初期投資にかかる費用をできるだけ抑えられるように工夫した。

導入の効果

経営発展支援事業の補助金があることで、自身が求めている良質な牛を導入することができた。

就農の状況と今後

就農準備(R2~R3)

外部リンクは
[こちら!](#)

- [飛騨牛繁殖研修センター](#)で技術を取得。
- 研修先や県など関係機関からアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- 家畜人工授精師免許を取得。

現在(就農1年目)

肉用牛繁殖25頭

- 青年等就農計画のとおり就農。
- 労働力は自身のみのため、効率的な飼養管理を行っている。

今後の目標(就農5年後)

肉用牛繁殖30頭

- 適切な飼養管理を徹底し、繁殖数を多くすることで、経営を安定させる。

匿名希望 さん (32歳)

(営農類型：施設野菜 [イチゴ])

新規就農を志した経緯・背景

会社員として働く中で、退職時期も含めて、すべて責任を負うものの自分で決めて実行することができる「農業経営者」に魅力を感じた。また、農業を始める上で必要な技術を学ぶことができる研修先が、地元にあったことから農業を志した。

導入した機械・施設等

育苗ベンチ 6a
予冷库 1.5坪



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・鋼材価格の高騰により、ハウスや高設ベンチの見積額が以前に比べてかなり高額になっており、できるだけ投資額を抑えるため、既存施設・設備の借用や補助金を活用し経営をスタートした。
- ・ハウスイ式は既存のものを借用、育苗施設と予冷库に経営発展支援事業を活用。

導入の効果

- ・育苗ベンチを導入することにより、作業性の向上、安定した苗生産が見込める。
- ・予冷库の導入により、高温期の収穫後出荷までの果実の傷みを抑制することができ、品質の維持・向上が見込める。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~4)

(株)あぐりん伊勢に研修社員として雇用、研修を受ける。
(イチゴ栽培管理全般)

- ・令和3年5月に研修開始。
(同4年5月まで)
- ・令和4年6月に経営開始。

研修先・JA・市が連携して農地の権利取得や補助金・資金の活用について支援！

現在 (就農1年目)

イチゴを15a作付
(2連棟×2棟を借用)

- ・1年目の所得は黒字の見込み。
- ・JA部会に加入し、JAや普及センターから栽培・経営について助言を受ける。

今後の目標 (就農4~5年後)

ハウスを新たに確保 (12.5a)

- ・ハウス等施設・設備一式の導入には補助金・助成金等を活用。
- ・環境モニタリングに基づく制御等を行うこと等により、単収の向上を図り、農業所得250万円越えを目指す。

芦田 泰子 さん (42歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

地方に移住し生活したいと思ったとき、仕事も自分の好きなことをと思い農業を志した。農業で生計が立つ経営を目指すため、技術が習得できるよう京都府の研修制度を活用した後、経営開始。

導入した機械・施設等

パイプハウス 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・所得の向上に必要な投資と考え、ハウス建設を決意。地域の気候条件を考慮するとハウスは数棟必要と考え早期に建てることを希望しており、負担軽減のため事業を活用した。
- ・ハウスの仕様については、同作物を栽培する先輩農家から助言をもらいながら検討した。

導入の効果

経営の柱となる万願寺甘とうを安定的に栽培し、作期を長期化することにより所得の安定を図る。

就農の状況と今後

就農準備 (R2～3)

- ・空き家バンク制度を活用し移住。
- ・京都府の研修制度を活用し、就農希望地で栽培技術等を実践的に研修。

普及センター職員や地域の推進員等が営農相談や販路確保に向けて支援！

現在 (就農1年目)

- | | |
|----------|-----|
| 万願寺とうがらし | 5a |
| 多品目野菜 | 35a |
- ・研修で使用した農地を中間管理機構より借り受けて就農。
 - ・経営発展支援事業でハウスを2棟新設。

今後の目標 (就農5年後)

- | | |
|---------------|-----|
| 万願寺とうがらし (施設) | 4a |
| 万願寺とうがらし (露地) | 5a |
| 多品目野菜 | 30a |
- ハウス、露地での万願寺甘とう栽培により所得の安定を図り、多品目野菜はスーパーや直売向けに有機栽培で栽培する。

木村 幸啓 さん (50歳)

〔※就農時49歳〕

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

幼少期に「人間は土から離れては生きていけない!」と聞かされ、いつ頃からかその思いが自分の中で大きくなり農学部に進学、農業関係に就職。食の根幹である農業が軽視され、開発により耕作地が減少、農業従事者が高齢化、後継者不足と…農作物の生産量が減少していく状況を目の当たりにし、微力ながら食の一翼を担おうと、一生の仕事として農業経営にチャレンジしようと決意。

初期投資を行う上で留意したポイント

- 先輩農家から譲り受けた施設・機械の耐用年数等を考慮し、将来の規模拡大、法人化を実現するために必要不可欠な機械（初期投資）を検討した。
- 特に生産・管理・販売のシステム化を見据えたうえでの導入を十分に留意した。
- キーワード！ ◆バランス ◆省力化・効率化 ◆将来性・耐久性

導入した機械・施設等

- トラクター18ps 1台
- 畝成形機 1台
- 自走ラジコン式動力噴霧機 1台
- 色彩選別機 1台
- 野菜保冷库
- 整地同時播種機 1台



導入の効果

作業工程の精査・改善により、作業効率が向上し、圃場の均質化と品質の向上に貢献した。

就農の状況と今後

現在（就農1年目）

就農準備（R3.4～R4.3）

- 地域おこし協力隊事業を活用し、都市部から移住。農業後継者として主にハウレンソウ栽培の技術を習得
- サポートチームの支援を受けて青年等就農計画を作成
- 農業以外の地域協力活動への積極的な参加

ハウレンソウ26a（ハウス16棟）
ゴマ7a

- 農地利用最適化推進委員の斡旋により農地、中古パイプハウス取得
- 経営発展支援事業と併せて村単独補助事業を活用し、農機具を取得し、更には法人化に向けた準備を進めている

今後の目標（就農5年目）

ハウレンソウ75a（ハウス50棟）
ゴマ15a

- ハウレンソウの施設栽培を中心に、経営を法人化
- スマート農業、省力化農業の実践により生産規模を拡大はかるとともに、生鮮野菜、生産物を利用した加工食品、冷凍食品の3温度帯の販売を目指す

村上 玄一さん (35歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

ボランティア活動を通じて集落の農業に関わり「農業の担い手は高齢の方が大半。ほとんどの人が、今後の農業や農地の心配をしている。このままだとおいしいお米を食べることができなくなるかも。」と危機感を感じた。一方、丹波篠山市の農作物の美味しさに感動し、「前職の営業スキルを生かして付加価値を生み出せるのでは」と新たな可能性に気付いた。自分がモデルの一つとなって、地域の魅力と農業の楽しさを多くの人に伝えていきたい。

導入した機械・施設等

- ①枝豆選別調製ライン 一式
(洗浄機・脱水機・供給ホッパー・選別機)
- ②枝豆脱莢機
- ③プレハブ冷蔵庫



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・初期投資にかかる費用は抑えるべしと、研修先からの助言を得て、まず研修先やほかの農家に相談し、乾燥機等の農機具は借りて対応。
- ・早期に必要な軽トラ等は自己資金で対応。トラクター、ハウス、ブームスプレイヤー等の導入には、青年等就農資金を活用。
- ・枝豆の選別調製等に必要な先進的機械は経営発展支援事業を活用。
- ・導入する農機具等の種類や能力は、市や普及員のアドバイスを受け、栽培規模に適したものを選定。

導入の効果

- ・経営発展支援事業、青年等就農資金等の活用によって、就農初年度から、枝豆選別調製等の作業の機械化を実現できた結果、効率的な生産につながり、当初の計画より早く規模拡大ができそうである。
- ・今後は、集落内の農地を積極的に預かり、加工分野にも力を入れていきたい。

就農の状況と今後

就農準備 (H31～R3)

H31年ボランティア活動を通じ丹波篠山市の営農組合と関わり、地域に溶け込む。

- ・営農組合で研修 (3年間弱)
- ・研修の一環として、自分で栽培し、技術習得+販路開拓の準備
- ・市や普及員のアドバイスを受け、研修中に得た金額や数値等を用いた現実的な収支計画、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

黒枝豆 (100a)
ベビーリーフ (施設7.3a)
黒大豆 (38a)

- ・枝豆の選別調製等に必要な先進的な機械の導入に事業を活用
- ・販路拡大のため、営業やSNSでの情報発信も積極的に行う。
- ・農業収入は約540万円 (資金除く)

今後の目標 (就農5年後)

黒枝豆 (220a)
ベビーリーフ (施設22a)
黒大豆 (38a)
加工品 (メンマ) (竹林10a分)

- ・営農組合からの斡旋で農地を拡大。
- ・加工分野に力を入れていく。
- ・農業所得の目標は約350万円
- ・農業収入の目標は約1600万円